

令和6年度蒲郡市自主防災会リーダー研修アンケート結果・検討事項について

1 実施日時と参加者数について

- (1) 5月12日(日) 塩津中学校 49人
- (2) 5月19日(日) 大塚中学校 45人
- (3) 5月26日(日) 三谷中学校 68人
中部中学校 50人
- (4) 6月 2日(日) 蒲郡中学校 62人
西浦小学校 43人
- (5) 6月 9日(日) 形原中学校 113人

各日とも午前9時30分から午前11時
参加者 430人

2 研修内容

(1) 座学

- ア 蒲郡市で発生する災害のおそれを知る
- イ 自主防災活動の必要性
- ウ 住民の自助意識を高める
- エ 住民主体の避難所運営の必要性について

(2) グループワーク

- ア ハザードマップを確認し、地域の危険性についての整理
- イ 自主防災組織の抱える課題の改善策について
- ウ 実施している災害への備えについて

(3) 資機材取扱

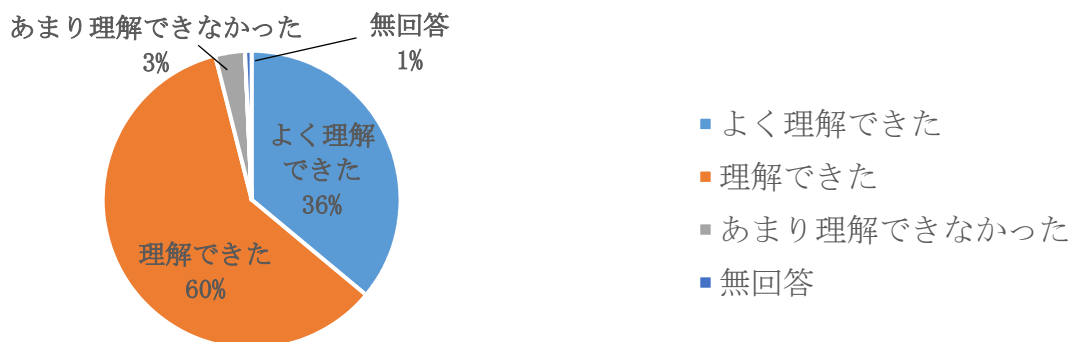
- ア 資機材(パーテーション、ベッド、トイレ)
- イ 倉庫の確認



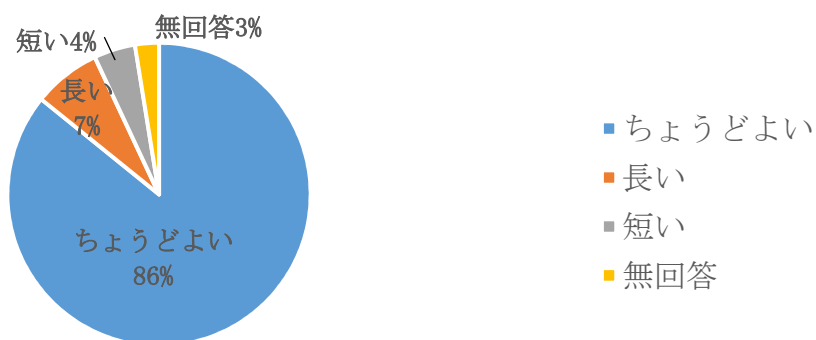
3 アンケート結果（アンケート回答者430人）

◆研修について

（1）研修について

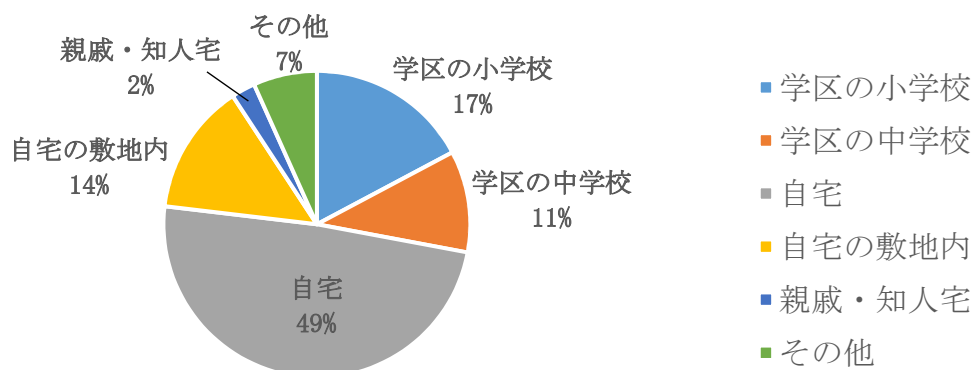


（2）研修時間について

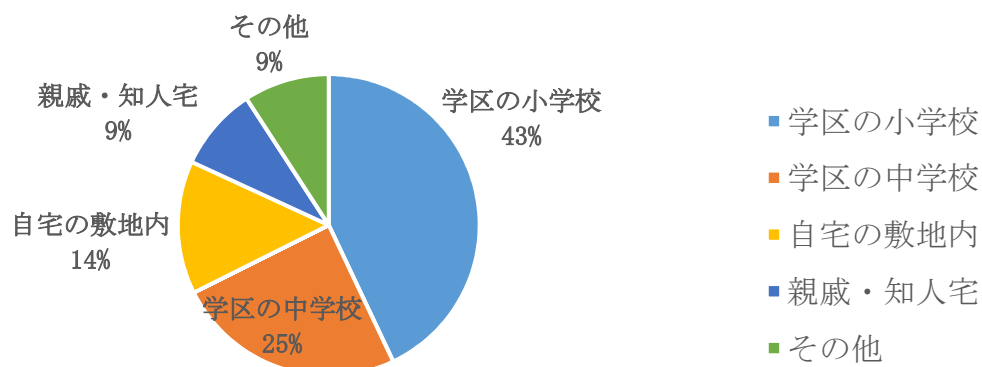


◆南海トラフ地震など巨大地震が発生した場合、どこに避難しようと考えていますか？

（1）自宅が被災していない場合

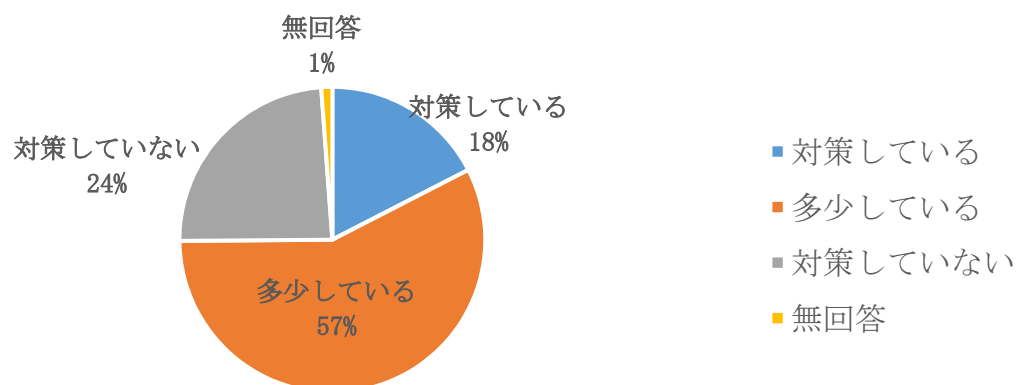


（2）自宅が被災した場合



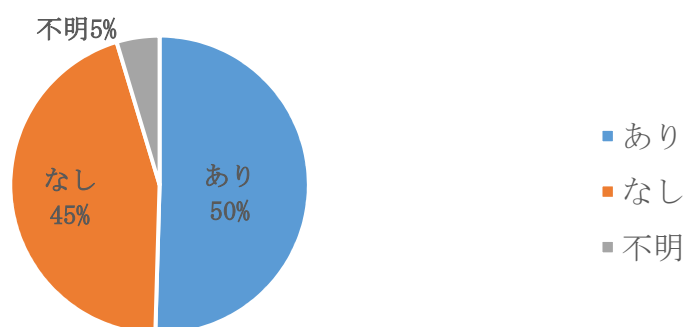
◆地震に対する安全対策について

(1) 家具の転倒防止対策をしていますか？

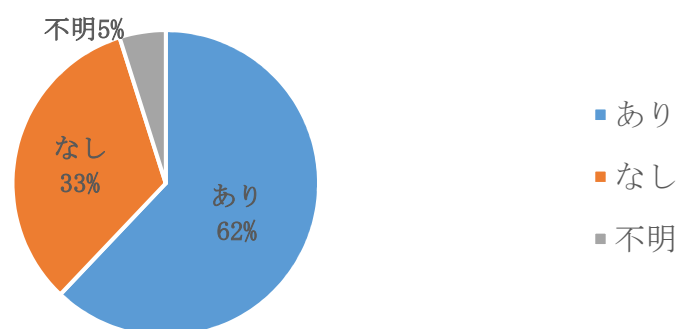


(2) 火災対策をしていますか

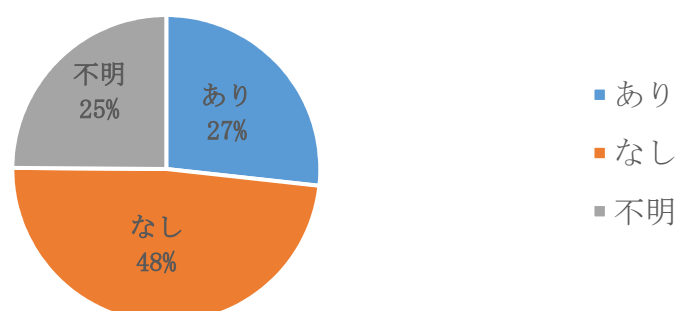
ア 自宅に消火器の設置



イ 住宅用火災警報器の設置

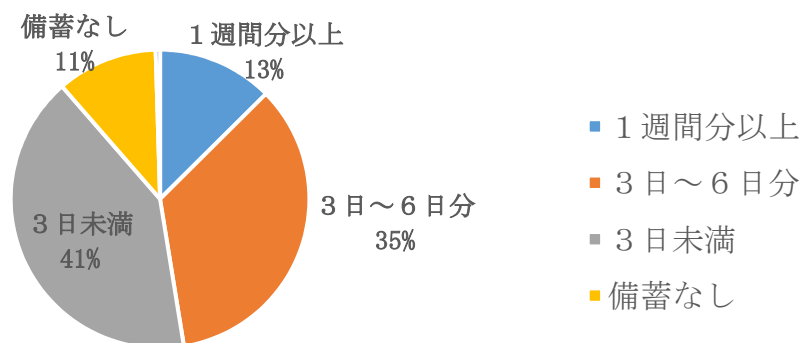


ウ 感震ブレーカーの設置

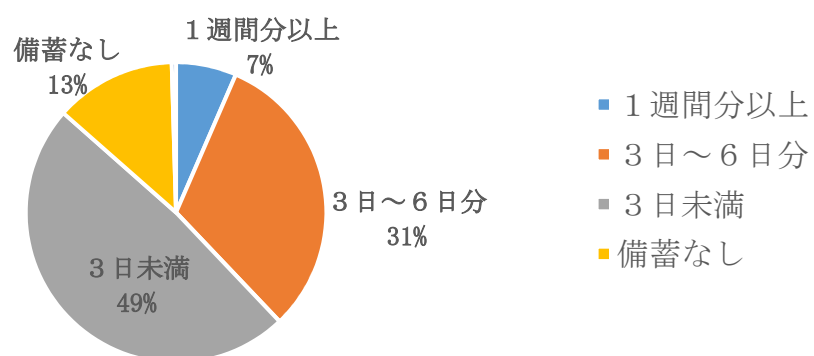


◆家庭での飲料水・食料の備蓄状況について

(1) 飲料水



(2) 食料



4 検討事項

◆参加者数について

昨年同様、広く市民に自助、共助の必要性を周知するために参加者を正副総代、正副隊長、また、避難所運営における多様な考え方が重要という観点から女性の参加者を各総代に依頼しました。また、避難所運営において施設管理者とのかかわりが重要であるため、各小中学校に参加を依頼しました。

女性の参加者は、本年度においては30人（昨年度25人）でした。

女性の参加者が増えない理由の一つとして、自主防災会の役員の9割以上が男性であるためと考えられます。各自主防災会において女性役員選出の啓発、また、出前講座等においても市民に広く周知する必要があると考えます。

◆研修について

（1）研修の目標について

今年度の研修におきましては、グループワークを取り組み、役員間で積極的にコミュニケーションをとっていただき、平常時から支えあい、顔の見える関係づくり、また参加者のみなさんが意見交換をすることで、各家庭で備えの必要性を理解、実践し、それぞれの地域で自助、共助の強化に取り組むことを目標に実施いたしました。

アンケート結果より、96%がよく理解できた、理解できたと回答しており、グループワークに関する意見からも、「グループワークで地域への理解が深まった」、「自分事として考える機会になって良かった。」、「グループワークにより他地区の防災への取り組みを知ることができ非常にためになった」、「発表するにもプレッシャーがあって真剣に考えることができた。」「自分の意見が言えたり、周りの人がどんなことを考えているか話を聞けて有意義だった。」、「一人一人の意見が出せる機会があって良かった。」、「今回で2回目の参加ですが、地区の人同士で話し合いをして発表する形式は良かった。」等の意見があり、グループワークの実施に効果があったと考えます。

また、その他の意見として、「防災に対する考えが個人で違いがあるのでどうするべきか課題である。」、「研修を受けるだけで伝えることをしていない。」「今研修でリーダーを中心に進めるのは非常に難しいと考える。各地区でのイベントの機会での防災意識を高めるためのツールを市として支援してほしい」等、具体的な課題や各地域に伝えることの難しさに対する意見が上がりました。市としましては、防災教室での啓発活動、地域の防災活動の参加等で、積極的に市民とのかかわりをもつ必要があると考えます。

一方、「話し合いをする時間が短い」、「ハザードマップが見にくい」、「配布された資料だけでは、参加者みんなに情報が伝わらない」、「話し合いの時、アドバイスをしてもらえると良かった」等、運営側の配慮が足りなかった部分の検討が必要と考えます。

（2）研修時間について

研修時間については、昨年度のアンケート結果を参考に1時間30分のカリキュラムの中で実施しました。（座学 35分、グループワーク 35分、実技 20分の予定）

しかし、グループワークの時間配分が予定時間を超過してしまい、実技においては一旦、終了した後、任意で資機材取り扱い訓練を実施しました。

次年度以降は、研修時間を2時間程度で実施する、もしくはグループワークの議題数を調整する等検討する必要があると考えます。